

くるわつうしん

QURUWA通信

公共空間の新たな使い方、楽しみ方を実験しました！
その取り組みシーンを一挙公開！！

あなたは、まちとどう過ごす？



QURUWA 通信って？

2017年度、岡崎市のまちなかの公園や道路、川といった公共空間で、新たなまちでの過ごし方を見つける実験をたくさん行いました。それらをまとめてご紹介します！

くるわつうしん

QURUWA 通信

もくじ

1. 社会実験「Meguru Quruwa」やってみました！ ······ p1
社会実験ってそもそも何？乙川リバーフロントフォーラム「QURUWAの未来の歩き方」から考える
社会実験「Meguru Quruwa」で、あなたはまちとどう過ごす？
当日はどんな感じだったの？
2. 公共空間活用って何？ ······ p5
アウトドアリビングな風景をつくろう！
#01 一本とお昼寝編@りぶらプロムナード
#02 まちで集めるお昼ごはん編@シビコ西広場
#03 まちで集めるブランチ編@籠田公園
#04 一クイズラリー編@りぶらプロムナード
#05 ヨガとお茶会編@りぶら北芝生広場
#06 読み聞かせ編@りぶら北芝生広場
- 3.QURUWA ACTION ······ p13

MeguruQuruwaやってみました！

2017年10月28日、暮らしのつくり手による「やってみたい」「楽しみたい」が集まるまちの過ごし方、使いこなし方の社会実験「Meguru Quruwa」を行いました。

「社会実験」ってそもそも何!?

乙川リバーフロントフォーラム2017

「QURUWAの未来の歩き方」から考える

「社会実験」ってそもそも何?と思われている方もいることでしょう。そんな疑問に対して、「QURUWA通信」は、2017年9月30日に岡崎市図書館交流プラザ・りぶらで開かれた、乙川リバーフロントフォーラム2017「QURUWAの未来の歩き方」で語られた専門家の先生たちの発言をピックアップしました。

「社会実験って何?」「どういう意味があるの?」などなどの疑問に答えてくれたこのフォーラム。第1部では、

西村浩さんから「欲しい暮らしは確かめながらつくろう!」というタイトルで講演をいただき、講演に続き第2部では「QURUWAの未来の歩き方」と題して、パネリストに清水さん、泉さん、西村さん、そしてモデレーターに藤村さんを迎えて、パネルディスカッションが行われました。

イベント	社会実験
非日常・一時的	特徴
集客数・盛り上がり、来場者の満足度	目標
来場者の満足度(デマンド側の評価)	評価軸
	イベントと社会実験の違い
	日常的・持続的
	持続性・ライクабルの実現、運営者の満足度
	運営の体制・仕組み・持続性(リラクス側の評価)

教えて!専門家の先生!



清水進次
3331アーツ千代田代表

- QURUWAの中にはりぶらを始め拠点となる場所が多くあります。従って、そこからまちに人が少しづつでも滲み出していくように広がっていったら、まちなかでの暮らしが激変するのではないかでしょうか。
- 空間の間をどのように移動するかで、得られる体験は異なります。歩いてする体験は一番コミュニケーション密度の高い体験であり、都市の都市たる由縁は人がコミュニケーションをする場であることなのです。



泉英明
北浜水辺協議会理事

- アメリカ・ニューヨークのタイムズスクエアでは、車でいっぱいだった通りの一部に規制をかけて広場にし、歩行者優先の空間にする社会実験が。最初は簡単な取り組みだったものが実験を重ねるに連れ結果が見え、恒久的な広場を設置することになりました。その他、フランス・パリでの高速道路を歩行者空間へと変える実験も含め、LQC (Lighter, Quicker, Cheaper = 簡単に、素早く、安く) を意識して繰り返し行うことで、社会実験での取り組みが、日常になっています。



西村浩
新リノベリング取締役

- イベントは非日常をつくるものである一方、社会実験はこれからのみなさんの未来の日常をつくるもの。
- かつての人口が増加し続ける時代とは違い、人口減少をはじめ初めてのことだらけの今の時代には、新しいライフスタイルの実践が必要であり、やって確かめるしかありません。そのために社会実験をやる必要があるのです。
- 社会実験は続けていくことが大事であり、続けていく状況を生み出すというのが大事なのです。



藤村龍至
東京藝術大学准教授

- MeguruQuruwaは、5年計画であるおとがわプロジェクトの後半戦一回目の試金石になるのではないでしょうか。
- 今回の社会実験では空間単体で考えるのではなく、空間イメージと共に移動の実験も行われます。車を排除するのではなく、利便性も確保しながら人が歩くようにするという実験がいくつか行われます。



DATA

2017年10月28日
乙川河川敷～中央緑道～籠田公園～連尺通り～シビコ西広場～りぶら
約3000人
小雨

社会実験「Meguru Quruwa」で、あなたはまちとどう過ごす?

この風景が私たちの未来の暮らしになる!

岡崎市のまちなかにある公園や川、道路といった公共空間で、新しいまちの過ごし方を検証する社会実験「MeguruQuruwa」。

当日は台風22号が近づく雨天で、予定されていた55プログラムの一部が中止に。それでも、実施可能な36プログラムは予定通り行われました。あいにくの天候にもかかわらず、各会場にはたくさんの方が!そして、そこには雨ならぬりの「理想の暮らし」と言えるような風景が広がっていました。

まちなかでは、至る所でその場に居合わせた他人同士のなにげない会話が生まれていました。乙川沿いには、雨もおかまいなしに遊ぶ子どもと、子どものように楽しむ大人が。籠田公園ではリラックスした大人と、その横でのびのびと遊ぶ子どもの姿が。歩行者天国になった連尺通りでは、年配の人から小さな子どもまで

が楽しそうに商店街を歩いていました。

日々まちづくりや理想の暮らしについて考えている人、なんとなく楽しそうだからと訪れた人、たまたま通りかかった人など…さまざまな立場の人たちが、思い思いにこの1日を過ごしていました。ここで感じた楽しさや気づきが、未来の暮らしを作るきっかけとなります。

この社会実験の結果をもとに、みんなが自由に楽しく過ごせる未来の岡崎のまちなかの実現に向け、まちづくりを進めていきます。

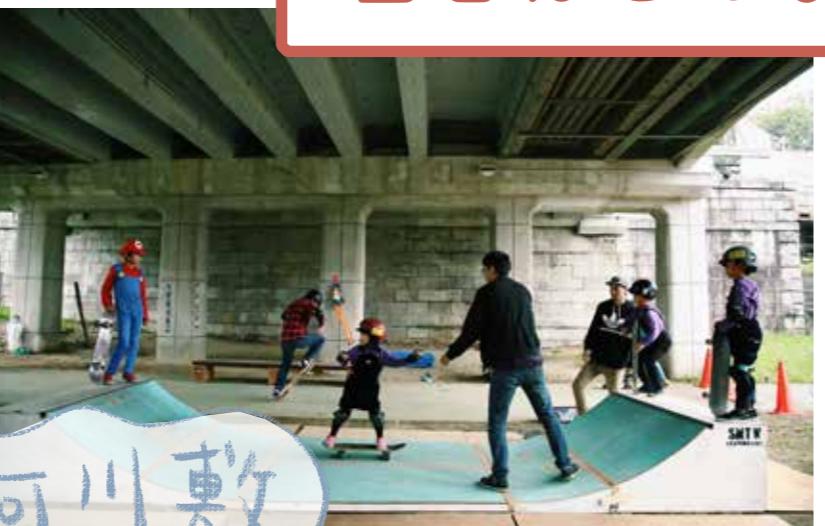
にかかるよ
たどり着いたよ
地図にはめぐら
レットにはめぐら
歩くことをめぐら
にかかるよ



事前の案内には招待状をイメージしたパンフレットを配ったよ。



当日はどんな感じだったの？





「あなたは、まちとどう過ごす？」をテーマに
10月28日に実施した社会実験 Meguru Quruwa。
「こうあってほしい」未来のいち日を実現してみるチャレンジを
1日だけのものにとどめず、公園や川、駐車場、道路といった公共空間で、
「やってみたい」「楽しみたい」を実現する実験を継続！
「アウトドアリビングな風景をつくろう！」と題して、全6回実施しました。
MeguruQuruwaの時には雨で中止になってしまったプログラムの復活も！
その様子は次のページから！

公共空間活用って？



アウトドアリビングな風景をつくろう！#01ー本とお昼寝編@りぶら東側ウッドデッキ&プロムナード
いつも通り過ぎるだけの道が、すてきな風景に！

2017年11月19日、図書館交流プラザりぶらの東側にあるウッドデッキで、公共空間を活用する社会実験「アウトドアリビングな風景をつくろう！#01ー本とお昼寝編」を開催しました。寒さの中でも、陽が出るとほんのり暖かい日。会場には、アウトドアテーブルや椅子に加え、人工芝やハンモック、電気カーペット、ストーブなどが用意されました。誰でも自由に手に取れるリサイクル図書も並べられました。また、この日はただ外で過ごすだけではなく「どんな広場になったらいいかをみんなで考えて、やってみる」というワークショップも実施。途中、風の向きや日の射し込む方角にあわせてレイアウトを変更するなど、いろいろと試行錯誤しながら滞在を楽しみました。寒い日ではあったものの、のびのびと遊べて子どもたちは大はしゃぎ。大人はリラックスしたひとときを満喫。その場に居合わせた人が何気なく話をするなど、ゆるやかなコミュニケーションも生まれていました。



ここでは、来た人は本を読んだり、ハンモックでくつろいだり、談笑したり…と、思い思いの時間を過ごしていました。



たまたま通りがかった人や、図書館の利用者が立ち止まって休憩したり、リサイクル図書を手に取りする姿も。



寒くなってきたら、ホットカーペットで暖をとったり。
あったかいコーヒーを淹れて飲んだり。



途中、少しだけ雨がぱらり…と思たら、虹が出たんだ！ほんの一瞬のこと、外にいなかつたり気づかなかったかもしれないね。

DATA

2017年11月19日
りぶら東側ウッドデッキ
&プロムナード
25人
晴れ時々雨



アウトドアリビングな風景をつくろう！#02 – まちで集めるお昼ごはん編 @ シビコ西広場

木漏れ日の下で“いただきます！”

「アウトドアリビングな風景をつくろう！#02 – まちで集めるお昼ごはん編」を開催しました。第2回目の会場は、岡崎シビコの西側にある広場。実はこの場所も“公共空間”なんです！木々が生い茂っていて、木漏れ日が気持ちのいい場所です。ピクニック気分で家族で参加される方がたくさんいました。

まずはまちに繰り出してお昼ごはん探しからスタート。スーパーでお惣菜を、レストランでインドカレーを、和菓子店でみたらし団子を……。周囲のお店をめぐって、それぞれ多彩なラインナップを持ち寄りました。

そして、持ち寄ったお昼ごはんをテーブルに並べて、用意しておいた紙製のランチョンマットに買ったお店や今日のランチのテーマなどを記入。これが、初めましての人同士でも、テーブルを囲んで「それ、おいしそう！どこで買ったの？」という会話のきっかけになりました。

誰でも使えるけれど、あまり使われていなかった場所が、ちょっとした工夫とアイデアで、笑顔がいっぱいの居心地がいい空間になりました。

DATA

- 2017年12月23日
- シビコ西広場
- 24人
- 晴れ



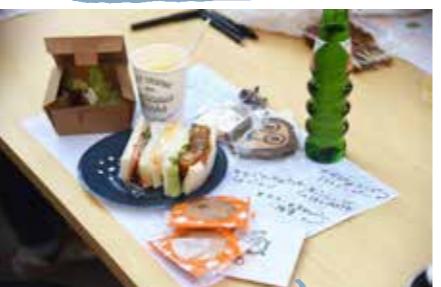
会場にはテーブルやいす、受付を置いたよ！受付では周辺のお店が書いてある地図などを配ったんだ。



管理者から許可を得て、焚き火台も置いたよ。暖をとったり、焼き芋やマシュマロを焼いたり、ホットワインを作ったりしてきたよ！



「日本古来の…」というユニークなテーマで、お弁当をスーパーで買ったり、アゲートを和菓子屋で買ったよ。



自前のかわいいお皿やコップなどを使って、こだわりたっぷりのおしゃれなランチを作った人もいたよ。



アウトドアリビングな風景をつくろう！#03 – まちで集めるランチ編@籠田公園

公園でみそスープ片手に“乾杯！”

公共空間を楽しく使うための“小さな社会実験”シリーズ第3弾を開催！第3回の会場は、籠田公園です。この日は籠田公園すぐ近くの八幡通りで行われる「二七市」の開催日。そこで、“二七市や周辺の店でごはんを買い回り、オリジナルの「ランチメニュー」を考案してみんなで食べよう！”と企画しました。参加者は、受付で渡された籠田公園周辺の店が書かれたマップを手に、まずは二七市へ。ここでパン、巻き寿司や、シェアして食べたい佃煮、ミカンなどを購入！

マップを見ながら、付近の店にも立ち寄ります。八百屋で惣菜、精肉店でコロッケなど…、思い思いの食べ物を買い回りました。

そして前回と同様に、買って来たごはんをテーブルに並べて、ランチョンマットに買ったお店やランチのテーマを記入しました。まだまだ寒い季節のため、今回も管理者から許可を得て焚き火台を設置。暖を取りながら、和気あいあいと語り合う参加者の姿がありました。寒い中でも、楽しげに公園に集うにぎやかな風景が広がっていました。



マップには周辺のお持ち帰りができるお店の場所やおすすめメニューが書いてあるんだ！



二七市では、新鮮な野菜や果物、生花に加え、手揚げ物や惣菜、サンドイッチ、巻き寿司なども売ってるんだよ。



ハンドドリップのミソスープも！ランチといっしょに、じもからだも温まるハンドドリップスープを楽しんだよ。



籠田公園には、遊具で遊ぶ子どもたちや、廻しあげをする家族もいたよ！

DATA

- 2018年2月17日
- 篠田公園
- 18人
- 晴れ時々雨



アウトドアリビングな風景をつくろう！#04 – クイズラリー編@りぶら東側ウッドデッキ&プロムナード

親子で真剣！りぶらの発見がいっぱい！

DATA

2018年2月24日
りぶら東側プロムナード
&りぶら
44組の親子
晴れ

第4回は、りぶらの運営をサポートする市民団体・りぶらサポータークラブさんとコラボして、子どもたちを対象にした「りぶらクイズラリー」を企画！クイズラリーのルールは、りぶら前のプロムナードに掲示されたいくつかのクイズに答えて、半分以上正解すると景品がもらえるというもの。

子どもたちはまず、りぶら中央階段横に設置された受付で解答用紙を受け取ります。その後、元気に走り出してプロムナードへ！クイズの在り処を探します。

そこで見つけたクイズの中身は、「市民団体を支援する“市民活動センター”はどこにある？」「中央階段の段数は？」など、りぶらに関する内容。普段何気なく利用しているりぶらに「こんな設備があったんだ！」「いろいろな工夫があるんだね」という発見にも出合えるクイズラリーでした。

プロムナードにはキッチンカーやアウトドアチャア、テーブルの設えも。クイズの参加者や図書館の利用者、また通りがかりの人など、さまざまな人たちがくつろぎ、その場を楽しんでいました。



幼稚園から小学生まで、約45人の子どもたちとその家族が参加して大盛況だったよ！



中には、子どもだけではなく、パパやママも一緒にになって真剣にクイズに取り組む姿も！



プロムナードでクイズを確認した子どもたちは、再びりぶらに戻って、自分で答えを探し出しました。



プロムナードにはからあげ屋さんのキッチンカーがお店を出して、木製用に用意されたテーブルでからあげを食べれたよ。



アウトドアリビングな風景をつくろう！#05 – ヨガとお茶会編@りぶら北側芝生広場

太陽の光を浴びて、心身ともにリフレッシュ

DATA

2018年3月2日
りぶら北側芝生広場
6人
晴れ

第5回は、二七市通りの惣菜店 wagamama house とコラボ！岡崎市立中央図書館の子ども図書室北側にある芝生広場で、屋外ヨガ＆お茶会を開催しました。

この日は雲ひとつない晴天で、春の気配を感じる暖かさ（風は少し強かったです）。

ヨガインストラクターの chie さんが講師となり、芝生の上でヨガを行いました。深呼吸からスタートして体をほぐしたあとは、スキップをしたり、ヨガの定番ポーズである太陽礼拝にチャレンジしたり。最後は芝生の上に寝転がって、シャバーサナと呼ばれるポーズでリラックス！

開放感いっぱいの中でヨガを楽しんだ参加者からは「すごくスッキリした！」「空がきれいで、気持ちがよかったです！」との声が。

ヨガの後は、芝生の上にテーブルを広げてお茶会をしました。ヨガで身も心もリフレッシュしたためか、皆にこやかな表情。お茶やお菓子をもぐもぐしながら、「次はフラダンスもやってみたいね」など、次回に向けてのアイデアも話し合われました。



からだを温めるためにみんなでスキップ！スキップ！風にも負けない！



全身でお日さまの光を感じるぞ！お日さまに向かってのび～～！！



寝転がって深呼吸していると、いつもは気づかなかった鳥の鳴き声が聞こえたり、地面の感触を感じたり、五感をいっぱい使ったんだ。



運動が僕には「どのお菓子が一番好き？」なんと言ったんだ。



アウトドアリビングな風景をつくろう！#06 一芝生の上で読み聞かせ編@りぶら北側芝生広場

陽だまりの中、家族で楽しむものがたり

「アウトドアリビングな風景をつくろう！」シリーズ最終回！最後は、岡崎市立中央図書館（りぶら）で読み聞かせボランティアの活動をされている「おはなしの森」のみなさんと一緒に、りぶらの芝生広場で絵本の読み聞かせ会を開催しました。

通常は子ども図書室内で行っている読み聞かせですが、今回は図書室を抜け出して、りぶらの北側にある芝生広場へ！

読まれたのは、「でんしゃでかえろう」「ふゆめがっしょうだん」といった絵本や、紙芝居など、子どもの好奇心をくすぐる多彩なラインナップ。ただお話を聞くだけでなく、声を出したり体を動かしたりしながら、ものがたりの世界を楽しみました。

飽きてしまったり、泣いてしまう子どもがいても、開放感のある屋外なので気になりません。子どもたちは自由に芝生の上を走ったり、ゴロンと横になったり…。

そんな子どもたちの横で、パパやママは椅子に座ってくつろいでいて、まさに“アウトドアリビング”と呼べるような風景が広がっていました。

DATA

- 2018年3月3日
- りぶら北側芝生広場
- 34人
- 晴れ



紙芝居「ごきげんのわるいコップさん」。みんなで大きな声で「コップさん、こっち向いてー！」と口んでみたり。



絵本「しあわせならできたたこう」を読みながら、みんなで手をたたいたよ！



芝生の上にはアウトドアシートやいすなどが広げられてのんびりとした雰囲気。



この日は春が来たようなども暖かい日。芝生広場には子どもと大人34人が集まって大にぎわいだったんだ。



みんなと一緒に、まちなかの
楽しい方を見つけよう！

ご紹介してきたもの他にもこんな公共空間活用が行われました！

QURUWA ACTION

6 / 17



7/22
~
11/25



籠田公園でアウトドアウェディング

地元企業や飲食店、地域住民、学生などの協力を得ながら、籠田公園でウエディングが行われました。公園というオープンな場所で、通りがかった人と幸せな空間を共有することができ、まちと人を繋ぐ公園の可能性が広がりました。

9/23
~
11/26



10/16
~
11/20



乙川を眺め楽しむカフェ「殿橋テラス」

約2ヶ月間、殿橋の欄干をカウンターに利用したカフェが営業。昼は気持ちいい川を、夜はライトアップされた橋を眺めながら、訪れた人たちがお酒やつまみを片手に語り合う、新たな交流の場が生まれました。

編集後記

2017年度の1年を振り返った「QURUWA通信」いかがでしたか？ご紹介した社会実験や公共空間活用の中で、あなたにとって「こうあってほしい」未来のいち日の風景を見つけることができたのではないでしょうか。

乙川リバーフロント地区のまちづくり情報はこちらからチェック！

web otogawa.jp
f [おとがわプロジェクト](#)
t [otogawa_project](#)
g [quruwa_info](#)



名鉄東岡崎駅、(仮称)乙川人道橋、籠田公園、りぶら、岡崎城など公共空間の各拠点を結ぶ主要回遊動線(重要なまちめぐりルート)。かつての岡崎城跡の「総曲輪(そうぐるわ)」に重なるところがあることと、動線が「Q」の字に見えることから「QURUWA(くるわ)」と表記しています。QURUWAの中で様々なまちづくりを展開し、まちの活性化や暮らしの向上を図ります。



MeguruQuruwa通信（2018年3月発行）
発行：岡崎市都市整備部乙川リバーフロント推進課 (Tel : 0564-23-6490) 編集：NPO 法人岡崎まち育てセンター・リタ (Tel : 0564-83-9012 / Mail : info@otogawa.jp)

